



奈良県感染症情報

令和2年 第34週(8月17日～8月23日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題「ダニ媒介感染症に気を付けましょう」

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	1.85	(1.32)	➔	➔	➔	⬆️⬆️
2	突発性発しん	0.35	(0.29)	➡️	➡️	➔	⬇️
3	咽頭結膜熱	0.26	(0.03)	⬆️	⬆️	⬆️	➔
3	A群溶連菌咽頭炎	0.26	(0.12)	➔	➔	➡️	⬇️
5	ヘルパンギーナ	0.21	(0.09)	⬆️	⬆️⬆️	⬇️	➔

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **⬆️⬆️**急増、**⬆️**増加、**➡️**やや増加、**➔**横ばい、**➡️**やや減少、**⬇️**減少

◆ 県内概況 ◆

定点把握感染症の流行はみられません。

県内大学や高齢者施設でクラスターが発生しています。前者は寮での共同生活、後者は要介護度が高く職員と入居者が密接に接触する機会が多く、感染が広がりやすい状況での発生でした。早期探知のために体調不良者数の把握、感染拡大防止のために咳エチケットや手洗いなどの感染予防策の実施と体調不良者を休ませ接触者を減らすことが重要です。

県民のみなさまには、新型コロナウイルス感染症に関連する憶測、デマ、不確かな情報に惑わされず、風評被害や人権侵害といった過剰反応につながることをないよう、行政機関の提供する正確な情報に基づき、冷静に行動していただきますようお願いいたします。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(田中小児科医院)

水痘が保育園児に見られる。

夜間の暑さのためか? 朝の体調不良を訴える子供らがいる。

予防接種以外の来院者は少ない。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

熱、咳等感冒症状の例の来院は少ない。

軽症の手足口病が1例。他は水様下痢、湿疹、アレルギー等がわずか。

他の感染症はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

咽頭発赤、咽頭痛、発熱のみのウイルス性咽頭炎が散見。

重症感はないが胃腸炎を伴うこともある。

手足口病も少数みられるも大きな流行はない。



出典:厚生労働省 HP

©2017 プロジェクトラブライブ! サンシャイン!!

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

令和 2 年 第 34 週 8 月 17 日 ~ 23 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	55	14	14	11	10	2	4	
インフルエンザ								
小児科定点数	34	9	9	7	6	1	2	
RSウイルス感染症								
咽頭結膜熱	9 (0.26)		3 (0.33)	3 (0.43)	3 (0.50)			
A群溶連菌咽頭炎	9 (0.26)	2 (0.22)	3 (0.33)	2 (0.29)	2 (0.33)			
感染性胃腸炎	63 (1.85)	8 (0.89)	17 (1.89)	6 (0.86)	25 (4.17)	4 (4.00)	3 (1.50)	
水痘	3 (0.09)	2 (0.22)			1 (0.17)			
手足口病	4 (0.12)	1 (0.11)			2 (0.33)		1 (0.50)	
伝染性紅斑								
突発性発しん	12 (0.35)	3 (0.33)	2 (0.22)	1 (0.14)	6 (1.00)			
ヘルパンギーナ	7 (0.21)	3 (0.33)	4 (0.44)					
流行性耳下腺炎								
眼科定点数	10	3	3	2	2	0	0	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	3 (0.30)		1 (0.33)	1 (0.50)	1 (0.50)			
葛城定点数	6	1	2	1	1	0	1	
細菌性髄膜炎								
無菌性髄膜炎								
マイコプラズマ肺炎								
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)								

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核5件(奈良市1、郡山2、中和2)
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症1件(郡山1)
4類感染症	レジオネラ症1件(中和1)
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染1件(奈良市1) 梅毒1件(郡山1) 風疹1件(奈良市1)

❖ 第34週のトピックス ❖

◆ IASR 2020年8月号
日本紅斑熱 1999~2019年

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/jsf-m/jsf-iasrtpc/9809-486t.html>

◆ 旅行者の方へのお願い 新型コロナウイルス感染防止「新しい旅のエチケット」について(観光庁 GOTOトラベル公式HP)

<https://goto.iata-net.or.jp/info/2020072704.html>

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。
旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

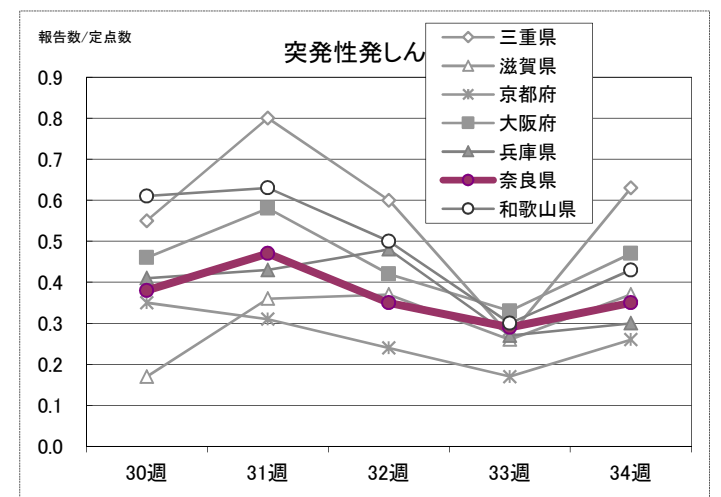
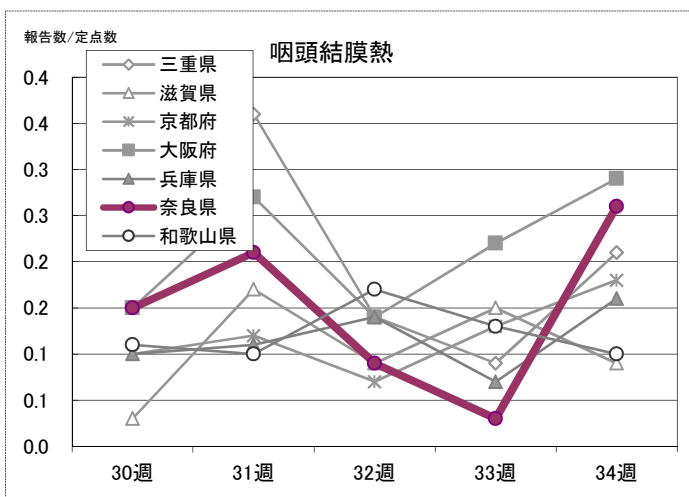
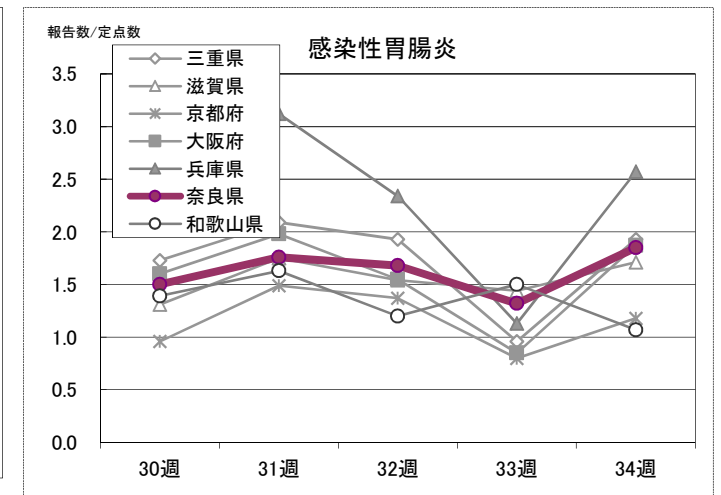
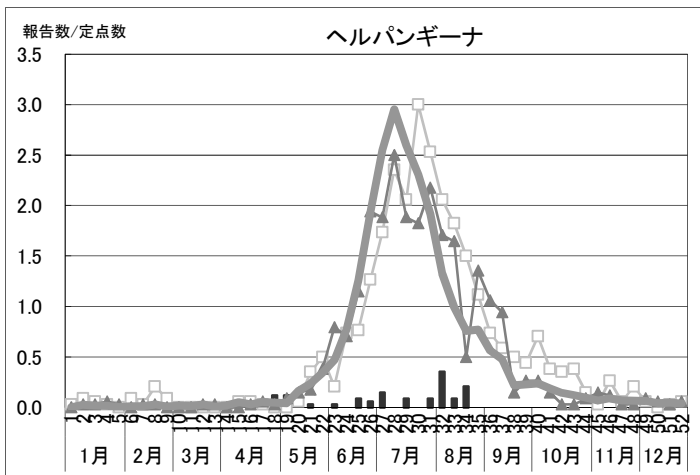
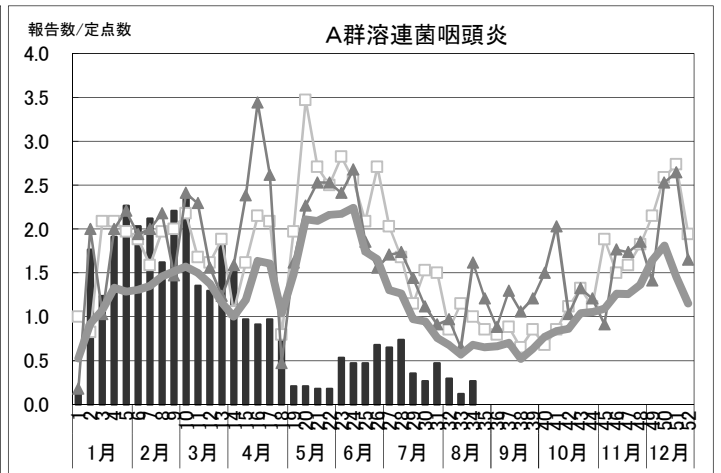
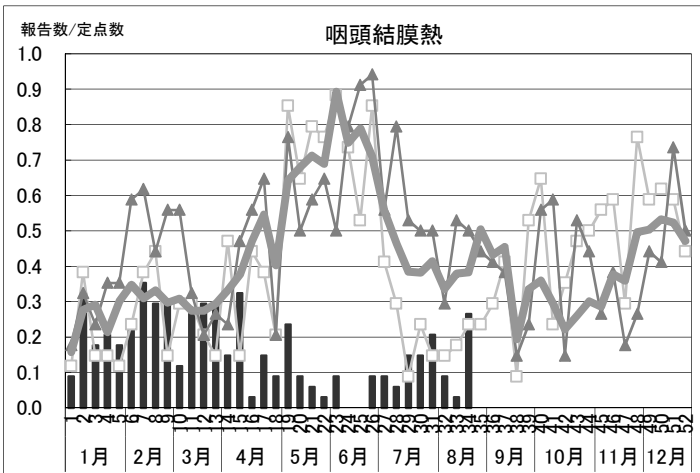
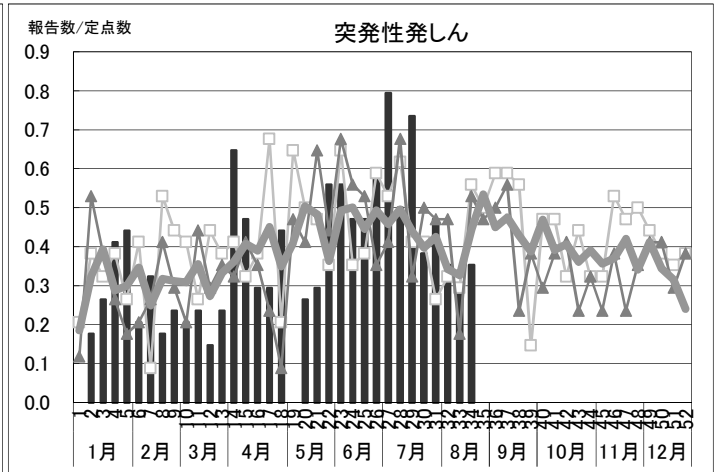
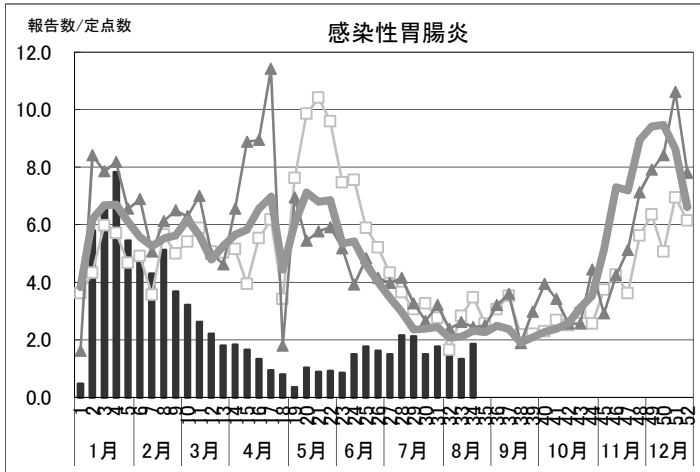
上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数 ÷ 定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男																						3009
	女																						2919
RSウイルス感染症	男																						105
	女																						69
咽頭結膜熱	男			1																			2
	女		1	4	1	1	1																7
A群溶連菌咽頭炎	男					1	1								1								3
	女						1	1	2		1												6
感染性胃腸炎	男		1	6	1	2	4	1		1			3	6	3	9							37
	女		3	3	3	2	2	1	3	1			1	2	7								26
水痘	男				2									1									3
	女					1	1																2
手足口病	男			1							1												2
	女																						2
伝染性紅斑	男																						
	女																						158
突発性発しん	男		2	4	3	2																	11
	女			1																			1
ヘルパンギーナ	男			2	1	1		1															5
	女				1	1																	2
流行性耳下腺炎	男																						
	女																						10
急性出血性結膜炎	男																						
	女																						1
流行性角結膜炎	男															1	1						2
	女												1										1
細菌性髄膜炎	男																						
	女																						5
無菌性髄膜炎	男																						
	女																						3
マイコプラズマ肺炎	男																						
	女																						15
クラミジア肺炎	男																						
	女																						14
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						
	女																						1

◆注目疾患の動向◆ 全て定点当たり報告数

■ R2 ▲ R1 □ H30 〰 過去10年平均



ダニ媒介感染症に気を付けましょう

第32週(8月3日～8月9日)に奈良県内でライム病の患者が報告されました。県内で感染したと推定される初めての症例です。ライム病は、マダニによって媒介される細菌感染症です。日本には命名されているものだけで47種のマダニが生息しており、ライム病を媒介するマダニは北海道ならびに、本州や四国、九州の山間部に生息します。近畿地方では、標高1500m以上を目安とする紀伊山地の一部にも生息しているとされており、本県はその内に含まれています。

国内で発生している他のダニ媒介感染症には、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、つつが虫病、日本紅斑熱などがあり、県内で今年は日本紅斑熱が1例報告されています。SFTSや日本紅斑熱はマダニによって媒介され、西日本を中心に発生しており、つつが虫病は北海道を除く全国で発生しています。

マダニは、野生動物が生息する環境や、民家の裏庭や裏山、畑などに生息します。ツツガムシ(ダニの一種)は野山や河川に生息します。ペットなどを介して家の中に持ち込まれることもあります。

SFTS: マダニに咬まれてから6日～2週間ほどで、発熱、倦怠感、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、腹痛、下痢)などの症状が出現します。また頭痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、出血症状(紫斑、下血)などの症状を引き起こすこともあります。

つつが虫病・日本紅斑熱: つつが虫病はダニの一種であるツツガムシに咬まれてから5～14日ほど、日本紅斑熱はマダニに咬まれてから2～8日ほどで高熱、発疹、刺し口(刺された部分が赤く腫れかさぶたになる)が現れます。治療が遅れると重症化しやすく、血管内凝固症候群(DIC)という血液の病気をおこすことがあります。

ライム病: マダニに咬まれてから数日～数週間(感染初期(stage I))で刺咬部を中心に環状紅斑又は均一性紅斑を呈することが多く、筋肉痛、関節痛、頭痛、発熱、悪寒、全身倦怠感などのインフルエンザ様症状を伴うこともあります。全身性に拡散(播種期(stage II))すると、皮膚症状、神経症状、心疾患、眼症状、関節炎、筋肉炎など多彩な症状がみられ、数ヶ月ないし数年を経て(慢性期(stage III))重度の皮膚症状、関節炎などを示します。

ダニ媒介感染症が疑われる場合、流行地域への行動歴、曝露歴やダニの刺し口がないか確認することが重要です。

○患者発生状況(人)

	2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
SFTS	61	0	60	0	60	0	90	0	77	0	101	0
つつが虫病	320	0	422	0	505	0	447	1	455	0	404	1
日本紅斑熱	241	1	215	0	277	0	337	0	305	0	318	1
ライム病	17	0	9	0	8	0	19	0	13	0	17	0

※2020年は日本紅斑熱とライム病が1例ずつ報告されています。どちらも県内で感染したと考えられます。ライム病は、推定感染地域が奈良県である初の症例です。

「ダニ」にご注意ください
山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう

春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。野山に生息するダニに咬まれることで重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病などに感染することがあります。

ダニに咬まれないためのポイント!

- 肌の露出を少なくする
⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等
- 長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する
⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中
- 足を完全に覆う靴を履く
⇒サンダル等は避ける
- 明るい色の服を着る(マダニを目視で確認しやすいため)
* 上着や作業着は袋の中に持ち込まないでください
* 屋外活動後は入室し、マダニに咬まれているか確認しましょう
特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、顔部(髪の中)などに注意

ダニに咬まれたときの対処法

- 無理に引き抜こうとせず、医療機関(皮膚科など)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらいましょう。
- マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】
①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動

ダニ媒介感染症(厚生労働省)

これらのダニ媒介感染症は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)で全数報告対象(4類感染症)であり、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出なければなりません。奈良県感染症情報センターHP内に、届出が必要な感染症や届出様式について、リンクを貼っているのでご参照ください。

また、病原体検査については、保健所を通じて奈良県保健研究センターや国立感染症研究所で検査可能です。

その際必要な検査材料は下表を参照ください(民間の検査機関での検査をお願いする場合があります)。

○検査材料および検査できる場所

		SFTS	つつが虫病	日本紅斑熱	ライム病
検査材料		血液、咽頭拭い液、尿、血清	血液、病理組織(痂皮)、血清		紅斑部の皮膚、髄液、血清
検査できる場所	保健研究センター	○(血清)	○(痂皮)	○(痂皮)	
	国立感染症研究所	○	○	○	○

(感染症情報センター)